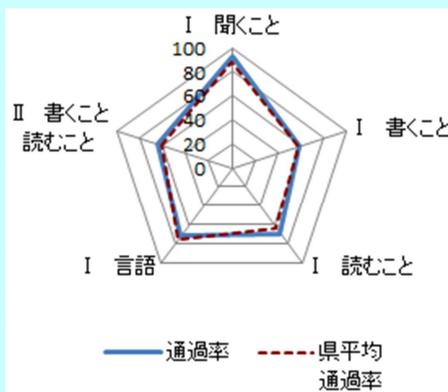
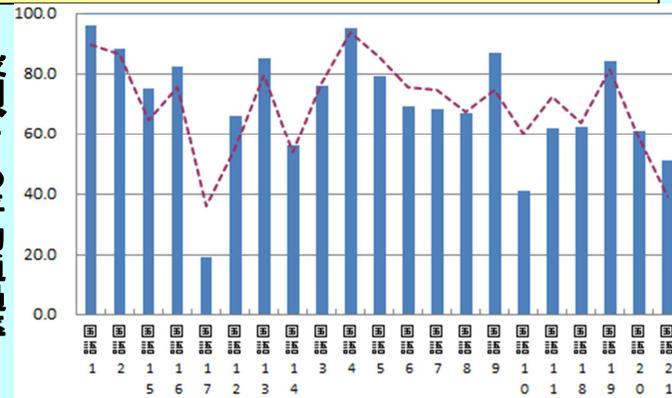


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校70.0%, 県69.7%)

領域別平均通過率



設問Iの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
本年度タイプIは71.2%、タイプIIは64.6%の通過率であった。タイプIの中で特に課題として挙げられるのは、「書くこと」の領域(通過率58.9%)であり、タイプIIでも「書くこと」(60.8%)に課題がある。特に書いた文章を読み返し、読みやすくわかりやすい文章にすることができていない。
- 昨年度の課題への取組結果
昨年度は、「読むこと」の領域を課題として取り組んだ。タイプIでは通過率の向上が見られたが、タイプIIの情報の取り出しに課題が残った。

重点課題

【課題1】

叙述の仕方を確認して適切に文を書きなおすことに課題がある。二つの条件の意味を正しく理解していない生徒が75.0%であり、無答率は5.8%である。

【課題2】

詩の共通点を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。三つの条件を満たして文章を書くことができない生徒が40.8%であり、無答率は8.3%である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

主語・述語の関係など、基本的な文の組み立てを反復練習させる。文章の読み取りにおいても、文の組み立てを意識した問いかけを意図的に仕組んでいくことで、「文の成分」の理解の定着を図る。さらに、叙述の条件を変えながら、類似した問題に計画的に取り組ませる。

【課題2】

模範解答となる文章を示し、自分の文章と比較させることで、情報の読み取りのまちがいや不足している部分に注意して文章を書き直させる。資料や文章から適切に必要な情報を抜き出し、再構成させる練習を計画的に仕組んでいく。

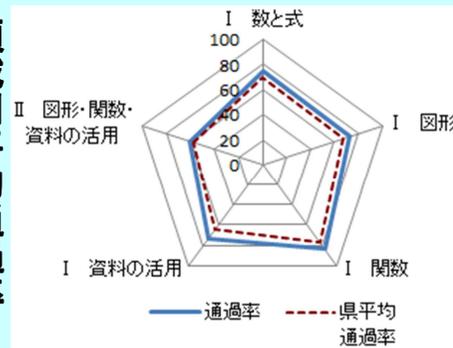
※また、30.0%未満の生徒に対しては、漢字の書き取り等、基礎的・基本的な課題をやりきらせる指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2学年 学期末試験			1・2学年 学年末試験	
目標値			50%			60%	
実施後数値							

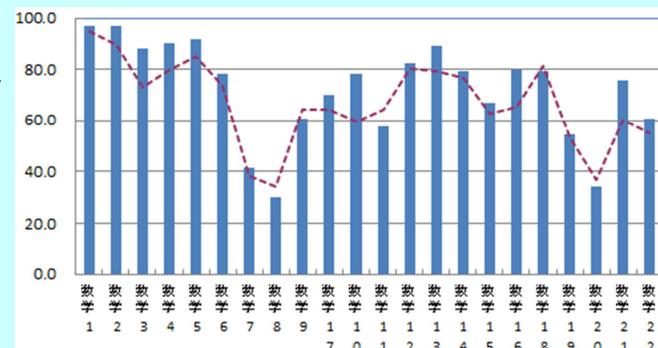
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 学期末試験			1・2学年 学年末試験	
目標値			60%			70%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校71.9%, 県66.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

数学の結果において、タイプⅠは75.1%、タイプⅡは60.8%の通過率となっている。また、通過率30%未満の生徒は1.7%、60%以上は、73.3%であった。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えるが、一方で、日常的な事象を数学的な課題として捉え、基礎的・基本的な内容を活用し、課題を解決する力が不十分であるといえる。

○昨年度の課題への取組結果

昨年度は「比例のグラフの特徴について数学的な表現を用いて記述する」ことに課題があったが、「比例」のグラフと「反比例」のグラフ、あるいは「比例」のグラフと「1次関数」のグラフを比較させ、それらの特徴を整理する活動を通して通過率は36.8%から54.2%にあがった。一定の成果はあったといえるが、依然課題がある。

重点課題

【課題1】

「2(2)文字式の表し方」 a cmの長さのテープを基準に、図を参考にして、 $2/5$ 倍のテープの長さを表す設問であるが、通過率が30.0%であった。 $a-3/5$ という誤答が45.8%だった。これは、割合についての理解が不十分であるからとともに、図に書かれている情報を正しく読み取れていないからと考えられる。

【課題2】

「10(2)事象の解釈と表現」かかる時間を $1/2$ にするためには速さを何倍にするとよいか、反比例の関係を根拠に考える設問であるが、通過率は34.2%であった。誤答の中では、何倍にするとよいかはあっているが、根拠として比例であるとしているものが43.3%と多かった。このことから、技能的に計算はできるが、反比例の定義と関連づけて理解できていないと考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

図の単位を変えて、(cm)や(倍)にしたものを比較することで、単位によって図の読み取り方が変化することの理解を図る。また、「20%」、「20%増」、「20%減」の意味の違いと、計算方法を実例をもとに比較させることで理解させる。

【課題2】

実生活において、比例関係であるもの、反比例の関係であるものを分類する作業を通して、比例と反比例の関係の定義を確認するとともに、体験的なものと、言葉での理解のつながりを持たせる。

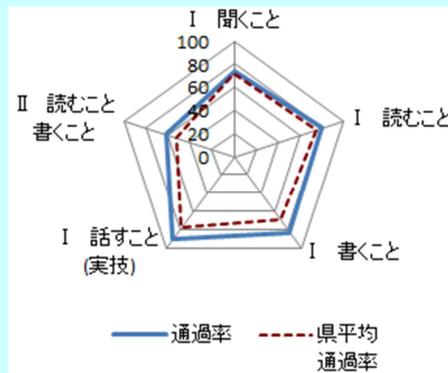
※また、30.0%未満の生徒に対しては、計算演習等、基礎的・基本的な課題をやりきらせる指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2学年 学年末試験	1学年 H28「基礎・基本」
目標値						60%	70%
実施後数値							

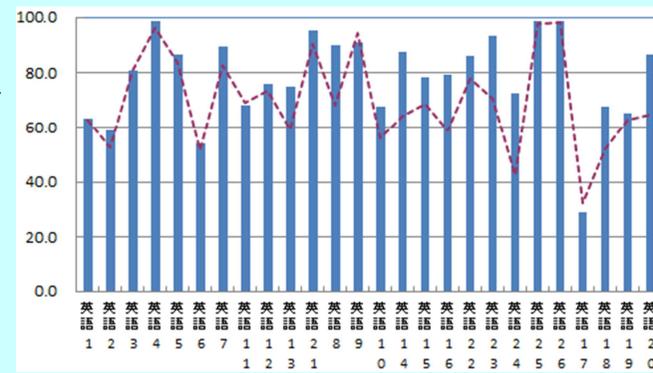
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1学年 期末試験			2学年 学年末試験	
目標値			60%			60%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校78.3%, 県69.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向
英語の結果において、タイプIは81.3%、タイプIIは62.1%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容(タイプI)については概ね定着が図られていると考えられる。話すこと(実技)については89.7%という結果だった。

○昨年度の課題への取組結果
昨年度は、「書くこと」の「会話の場面に応じて適切に英文を書く」、「話すこと」の「wh疑問文の問いに対して、適切に対応することができる」に課題が見られた。また、それに伴いタイプIの「書く」、「話す」領域の通過率が低かった。そのため、文法のドリル学習や、アウトプットを多くする取組を行った。その結果、タイプIの「書く」は22.5%、「話す」は19.2%上がった。

重点課題

- 【課題1】
(読むこと・書くこと【外国語表現の能力】) 情報を基に、それに関連する質問を考え、英文を書く問題。内容の把握でつまずいている生徒と、内容がわかっていても英語で正しく答えられていない生徒がいた。(通過率29.2%)
- 【課題2】
(読むこと・書くこと【外国語理解の能力】) 情報を基に、中心となる事柄を正確に読み取ることができる。ポイントを押さえて内容を理解することができていない。(通過率65.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

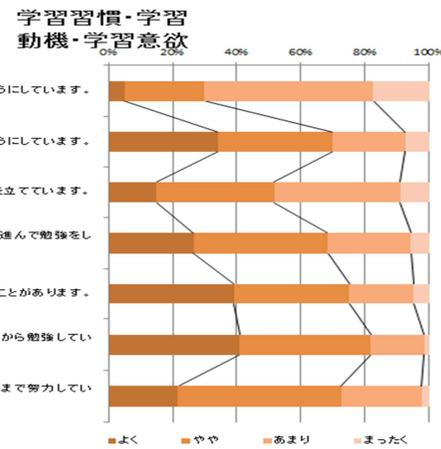
- 【課題1・2】
- 教科書を黙読し、ポイントを押さえながら読ませるトレーニングを行う。
 - 文章を穴埋めなどにし、内容を推測しながら、単語や文章を入れるような問題を適宜行う。
 - 文法のドリル学習については、形・意味・用法等を確認しながら行う。
 - 疑問詞の後の語順については、一般動詞、be動詞、主語の並びが理解できていないので、語順ドリル等を行い定着させる。
- ※また、30.0%未満の生徒に対しては、単語の書き取り等、基礎的・基本的な課題をやりきらせる指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2学年 学期末試験		1・2学年 学年末試験	
目標値				70%		70%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2学年 学期末試験		1・2学年 学年末試験	
目標値				70%		70%	
実施後数値							

質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

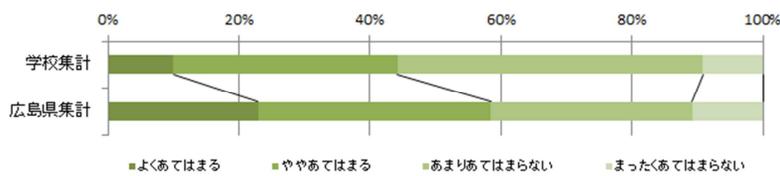
(1) 生活・学習



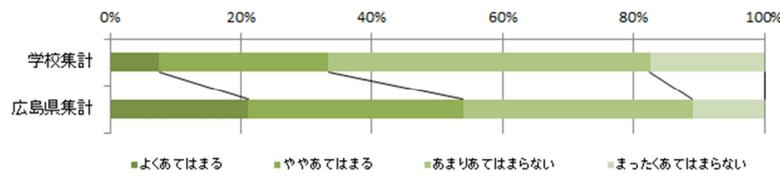
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「学習習慣・学習動機・学習意欲」について、「自分で勉強の計画を立てています」を肯定的に評価した生徒が約50%と少ない。	①計画を立てることの意義を説明する。 ②計画を立てて勉強する取組のやり方を指導する。 ③勉強時間を確保するために、個別相談を行い、生活時間の見直しを図る。	2	70%	生徒アンケート	2月		

(2) 教科

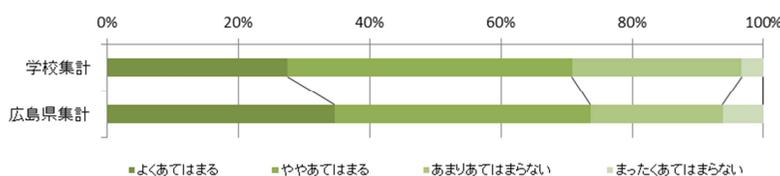
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



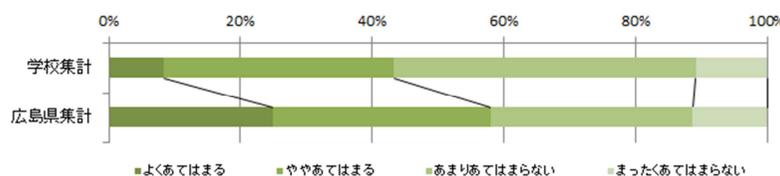
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識している。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」に対して、肯定的に回答した生徒が44.2%と少ない。	国語科における学習のスキルを精査し、授業の中で反復練習させることで定着させていく。また、どのような場面で活用できるか事例を示し、実際に使わせてみる。	2	70%	生徒アンケート	2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。」に対して、肯定的に回答した生徒が約33%と少ない。	授業では、小グループ活動を行い、自分と友だちの考えの共通点や相違点を比較しながら伝え合わせ、そこでの気づきを、最後の「まとめ」「振り返り」を書かせる活動につなげる。	2	70%	生徒アンケート	2月		
理科	「理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識している。」に対して、肯定的な回答が70.8%と県平均より少ない。	明確な根拠をもち、予想や仮説をもたせる指導を行うとともに、問題解決学習の流れに沿って考えさせる場を設定する。	2	80%	生徒アンケート	2月		
英語	「自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」に対して、肯定的に回答した生徒が43.3%と少ない。	帯活動 (パターンプラクティス) などで、話す活動 (自己表現活動等) を入れることで、話す場面を増やす。	2	70%	生徒アンケート	2月		